



2018年夏 ジュニア大使

～ブルネイで英語サマーキャンプとホームステイ～

「ジュニア大使友情使節団・ブルネイ班」を初めて IFA では組織します。英語によるサマーキャンプとホームステイ、政府関係機関訪問等を通じ、国際的リーダーシップや異文化コミュニケーションの手法習得を目指します。

◆ブルネイ・ダルサラーム

東南アジアのボルネオ島北部にある小さな国。総面積は日本の三重県とほぼ同じ 5,765 平方 km で、人口約 40 万人。首都はバンダルスリブガワン。公用語はマレー語。日本から直行便はなく、マレーシアかシンガポール経由で約 12 時間。日本との時差は -1 時間。

14 世紀末ごろに国の礎が築かれ、19 世紀末にイギリスの保護領となる。太平洋戦争勃発に伴い 1941 年から 45 年までは日本の統治下。59 年イギリスの自治領となり、84 年に独立。

石油や天然ガスなどの豊かな資源に

恵まれ、国民一人当たりの GDP はシンガポール並みの高さ。輸出用天然ガスの約 9 割を日本へ輸出しており、日本は最大の輸出相手国。

国名の「ダルサラーム」とはマレー語で「平和な国」と訳される通り、色とりどりの動植物に満ちた肥沃な自然が残り、熱帯雨林が生い茂る、美しいイスラム教国です。

◆インターナショナルスクール・サマーキャンプとホームステイ

サマーキャンプは、インターナショナルスクールに通う様々な国の児童や生徒、さらには海外からの参加者が集い、英語で交流します。以下、テーマ。
①サッカーや水泳等のスポーツを通じて英語で交流

②国を越えて友達を作り交流を深める
【フィールドアクティビティ】
在ブルネイ日本国大使館を表敬訪問(予定)、モスク、水上集落、地元のマーケット、他

【ホームステイ】(ジュニア大使のみ)

- ①ブルネイの家庭と生活を学ぼう
- ②ブルネイの文化に触れよう



インターナショナルスクールスポーツ棟

◆団組織の願い

私たちの生活は、経済や通信技術の発展にともない豊かな「品」や「情報」にあふれ、便利で快適になってきました。しかし、世界では今なお戦争やテロの脅威が後を絶ちません。ジュニア大使への参加を通じ、異なる文化に接し相互理解を深める一方、日本人として誇りと自信をもち、世界の人々から信頼されるような立派な人に育てて欲しいと願い、ブルネイ班を実施します。

第 34 回夏期ジュニア大使友情使節団 2018 年 7 月実施 団員募集

本事業は多感な子どもたちが国際社会への理解や外国語への関心を深め、様々な文化に接することを通して正しい国際感覚を身につけ、立派な国際人材として育ててほしいとの願いから、1985 年に創始されました。以来 34 年、訪問先の公的機関の後援を得て毎年実施し、これまでに 3,747 名の少年少女たちがジュニア大使になり、13 ヶ国・地域の政府および関係諸機関のご支援のもと、この国際研修に参加しました。

■実施機関：一般社団法人国際フレンドシップ協会
■主催旅行社：株式会社エイチ・アイ・エス
公務法人営業所
■後援：在ブルネイ大使館
■研修期間：7月21日(土)～7月31日(火)

■参加資格：小5以上高校1年生、9名～15名
■参加費用：39万8千円(予定)
■応募方法：「応募用紙」をダウンロードの上、応募
■応募締切：5月31日(木)
■説明会：5月19日(土) 東京、他随時

■問合せ先：一般社団法人国際フレンドシップ協会 担当：小山、草場、及川

〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12 麻布台ロイヤルプラザ 703

TEL 03-3582-3021、FAX 03-3582-3010、E-mail: junior-ambassadors@ifajapan.org

世界万華鏡

“第 33 回春期ジュニア大使友情使節団パラオ班”

団員が見たパラオ

●3月27日(火)

初めて一緒に行く団員と会い、結団式と研修を行った。みんなしっかり目的をもって良いと思った。20 時、いよいよパラオへ出発。一緒に行くメンバーと仲良くできて良かった。フライト時間が 4 時間 45 分と長かったが、みんな楽しく 1 日目を過ごしていた。

●3月28日(水)

今日はコロールからペリリュー島とカープ島にボートで移動した。ペリリュー島では、戦争の跡や実際に使われていた戦車や飛行機、防空壕、大砲などの見学をした。現地に行ったからこそ、近くで見たり触ったりできてとても良い経験になった。他にも西太平洋戦没者の碑では、全員でしっかりと手を合わせられて良かった。カープ島に着いたらジャングルを歩き、洞窟やマングローブを見ることができた。海の色はとてきれいで、水も透き通っていた。

●3月29日(木)

今日はパラオ小中学校を訪問した。学校はとて広くクラスがいっぱいあった。生徒たちがボディガードしてくれた。生徒さんと遊んだり会話をし英語の練習になった。そして給食はとておいしかった。日本文化紹介

では刈羽甚句を披露した。他の団員はけん玉、剣道、駅伝をやり、生徒たちを笑わせていた。最後に皆で「我は海の子」と「ふるさと」を歌った。

●3月29日(木)

今日はホストファミリーとの対面の日だった。お土産に持っていった駒をすごく喜んでくれたので、「ありがとう」と言いたかったけれど、英語がとっさにわからなかった。でもコミュニケーションはとれたので、大切なのは言葉ではない、通じることなんだと思った。

●3月30日(金)

今日は国会議事堂を見学した。思ったよりも広くびっくりした。在パラオ日本大使館表敬訪問では文化の違いや ODA の活動について学んだ。今までは知らなかったけれど、日本はパラオに色々援助をしていることが分かった。私は最初、なぜ日本のお金を外国のために使わなくてはいけないのか良く分からなかったけれど、そういった活動は世界全体をレベルアップさせていくために必要なことであり、日本が昔助けてもらったその恩を次は日本が受け継いでいこうという意思からきていることと分かった。

●3月31日(土)

今日はホストファミリー 11 家族が海にかかる日本パラオ友好橋の下に集った。ウォータースライダーで滑ったり、高い岩から飛びこんだり沢山のことをした。お昼のバーベキューでは肉などを沢山食べたり、ホストファミリーとペアになりゲームをした。これらのことを通じてホストファミリーとジュニア大使の団員とも仲を深め、強い絆で結ばれることになった。

●帰国後の感想

- ・パラオは人が優しく自然がきれいなどとてもいい場所でした。
- ・戦争の傷跡を生で見られたのは貴重な経験でした。戦争の悲惨さを伝え、平和な世の中にしたいです。
- ・今後に「繋がる」経験でした。自分の進路について考えるときにこの経験を活かせたらと思います。

(参加者日誌より抜粋、校正：編集)

平成 30 年 4 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703

発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社